食品リサイクル普及推進に向けての取り組み

■JAとの消費者交流会

食品リサイクルループに参加している農業生産者と消費者との交流会を定期的に開催しています。消費者に野菜や果実の収穫体験を通して安全安心な作物作りにかける農家の努力を知ってもらい、食品リサイクルループの紹介と合わせて、リサイクルの環を体験してもらいました。昼食会では採れたて野菜や郷土料理をいただきながら、消費者・農家それぞれの意見交換がされ、楽しい交流の場となりました。

■収穫体験

食品リサイクルループで栽培している米や野菜の収穫体験を、次世代を担う子供達と行いました。普段は苦手な野菜でも、自分で収穫したものは食べられるようになる子供がたくさんいます。また堆肥場では発酵中の堆肥の山に手を入れ、熟成の温度を感じたり、においを嗅いだりして、食品残さが堆肥に変わる様子を体験しました。堆肥をさわり自分の手で収穫することで、食べるということは多くの生きものとの関わりによって成り立っていること、「生物多様性」を学びました。

■世界国連地域支援センター 第38回地域開発国際研修コース

ユニーはこの研修の「3Rの実践、食品リサイクルループ」の視察と講義をJA愛知経済連と協働で担当しました。研修には途上国の中央・地方自治体の職員（アジア・アフリカ・南米）が参加しました。持続的な地域開発を推進するために開発途上国の地方自治体職員の能力向上を図ることを目的としたものです。研修当日は、ユニーのエコストア「リーフウォーク稲沢」の環境保全施設や食品リサイクルの現場（食品残さの発生現場・保管状況・エコ野菜の販売など）を見学し、再生利用事業者D.I.Dの堆肥製造工程、JAあいち海部の農業生産現場を回りました。現場では実務者や農業生産者との交流も行い、研修生だけではなく従業員や関係者にも有意義な一日でした。

リサイクルループを構成するパートナーシップ

私達がそれぞれの役割を果たすことによって、リサイクルの環が完成します。食品をムダにせずに、ゴミも減らすことができる、地球にやさしいライフスタイルです。「安全安心で新鮮、そしておいしい」、作った人の顔が見える農産物をお客様にお届けすることが、ユニーの役目と考えています。

■食品関連事業者

食品循環資源を排出する店舗

1. 調理クズ・魚アラ・売れ残り・残飯などから異物を排除し分別、計量する

分別マニュアルの作成。
従業員・テナントへの教育の徹底。

2. 食品循環資源の品質を確保するために、適正に保管する

廃棄物庫の整備（清掃・冷蔵施設）。
保管容器の整備（分別容器・洗浄）。

■再生利用事業者

1. 品質の高い再生製品（堆肥・飼料）を製造する

原料である食品循環資源・製造方法・施設・保管の基準作成と監視。

2. 農業生産者のニーズにあった再生製品を製造する

再生製品の販売先を確保し、農業生産者とパートナーシップを図る。

■農業生産者

リサイクル農産物を消費者に提供する

1. トレーサビリティの確立（生産者の顔の見える農産物）

農業生産者の生産技術と適正な再生製品（堆肥・飼料）によって、安全安心な農産物を提供してもらう。

リサイクルループを構築するために

店舗の所在地で「地域循環型食品リサイクルループ」を構築し、地域の再生利用事業者や農業生産者とパートナーシップを図っていくことがユニーの方針です。パートナーシップを探すために、紹介者（もしくはコーディネーター）が必要になります。パートナーシップで最も重要な要素は、お互いの食品リサイクルに対するポリシーが合っていることです。

■環境担当者の役割

食品残さをリサイクルするためにパートナーを探す

1. リサイクルループで生産した農作物を販売することを目的としてパートナーを探す
   再生利用事業者の製造する堆肥や飼料が、農業生産者の利用に適した品質かどうか確認する。
2. 再生製品（堆肥や飼料）を利用する農業者を探す
   地産地消を前提に、生産技術の高い農業者に主旨を理解してもらい、パートナーになってもらう。

■仕入担当者・販売担当者の役割

リサイクル農作物を販売

1. 生産された農作物を販売するために、社内で検討する
   販売計画を立てる前に、農作物の栽培履歴や品質が販売基準に達しているかどうかを確認する。
2. 農業生産者と食品関連事業者がパートナーシップを図る
   販売計画に基づいて生産計画を検討して、購入契約を結ぶ。
3. 食品関連事業者はリサイクル作物の特徴を消費者へ充分にアピールする
   売り場にリサイクルループの主旨説明や生産者の紹介などを掲示し、「安全安心な農作物」であることを明示する。